

風光



とんでもない！福祉の商品化 福祉職場の人材確保を求めて

6・22中央行動

6月22日、福祉保育労働中央行動が行われ、厚生労働省と交渉を行いました。90名以上の仲間が全国から集まり、一丸となつて、現場実態や現行制度の矛盾などを訴えました。

厚生労働省側は介護・障害・保育といった種別の担当官に加え、労働条件などを監督する部署も参加しましたが、互いの連携が全く取れていない事が浮き彫りとなる交渉でした。「福祉職場の多くがサービスマン・残業をせざるを得ないような『ブラック企業』になっている事に対して、厚生労働省としてはどう考え



交渉の後に国会に向けて「最後まで闘うぞ！」と氣勢を上げる中央行動参加者たち

ているのか？悪いのはその事業所か、それともそうせざるを得ないような補助金単価しか出さない厚生労働省か？」という問いかけを重く受け止めてほしいものです。

◇実態が分からない担当者◇

障害種別では、東海地域の障害協からの発信となった「6時間を超える支援でのヘルパーの休暇時間の取得」についての問題が話されました。「厚生労働省として、どのように考えているのか、モデルや見解を教えてください」という質問に対して、担当者「なぜ、休みが取れないのですか？」「他の人と交代して下さい」と平然と答えています。利用者さんと一緒に遠出をしている場合に、休憩のためにその場所に交代要員が行くというのか？実態が想像できないから、数字だけでしかとらえられない。しまいには、「労働違反があるときは、労基署に行つて相談してください」とあっさり言い放ちました。

その他にも、「常勤換算方式によって、職場の非正規率が高まり、正規職員の過重労働が進

んだ結果、職場の定着率が低くなったり、募集しても人が集まらない状況までと考えるのか？」という質問に対しても、「常勤換算方式は実態に合わせて、流動的に人員配置ができるというメリットがあります」と答え、会場からは「ふざけるな！」「ちゃんと現場を見に来い！」という怒りの声が上がりました。

◇「わかりません」 「司法の判断」◇

保育種別では、ちょうど三党合意での新システム関連法案が国会に提出された時でもあり、「児童福祉法24条の自治体責任は守れるのか？」「なぜ、必要のない制度改革を断行するのか？必要な予算をつけられないだけのことでしょうか？」といった質問に対しても「議員修正案なので、私たちはよく分かりません」「予算を決めるのは財務省ですから」と自分たちの責任を投げ捨てるかのような発言がありました。

介護種別でも、介護労働者にも解禁となつてしまった「吸タン」などの医行為の問題点で紛糾しました。「医療従事者ではない者が、短い研修時間だけで吸タンなどを行い、万が一事故などが起こったら、どうするか？」という問いかけに対して、

「事故については、司法の判断に委ねられます」と全くの責任転嫁。自分たちが勝手に規制緩和をしておいて、その結果起こった問題に対しては何の責任も持たないという身勝手な姿勢に、参加者は開いた口がふさがりませんでした。

「風の首」

梅雨の時期、シメシメとした過ごしくさもありませんが、そんな中、先日京都の善峯寺というところに行ってきました。雑誌を見て、眺めが良さそうと気軽に訪れてみたんですが、とても素敵なお寺でした。

◆斜面一面に咲くあじさい
満開のあじさいでした。幸福地藏に「自分以外の人の幸せ」をお願いします。

◆日本一の松
“遊龍の松”と呼ばれ全長15mある天然記念物です。

◆京都を一望
薬師堂あたりから京都市内を一望でき、とても眺めがよく気持ちがいいです。

◆厄除けの鐘
桂昌院が徳川綱吉の厄除けのために寄進されたものです。

京都市内から1時間と少し離れた場所にあります。素敵なところなので足をのびして行ってください。春には立派な桜、秋にはもみじも拝見できそうです。

あめのそら

たくさん学んでできました！ 社会福祉研究交流集会IN福岡

6月16・17日に開催された第20回社会福祉研究交流集会には、全国から200人近い参加者が集まり、大いに盛り上がりました。その様子を執行委員の原さんと白石さんのお二人にリポートしてもらいました。

みなと福祉会分会 原 彩子

〈記念講演〉

フリージャーナリストの小宮純一さんに「震災の現場から見てきた公的福祉・福祉労働の姿」というテーマで被災地の実態から講演をいただきました。

東日本大震災から一年以上たつのに全然進んでない復興の姿を知りました。それは衝撃的な話の数々でした。「絆・復興なんて言葉は被災地の人は一切使わない。使っているのはメディアだけ……復興、復興と政府は言っているが「復興」なんて本当に進んでない現実、見渡す限り何もなくなってしまった土地。まだまだ、支援の必要はあるし、私たちにできることはあると感じました。

福島第一原発事故でも、大量の放射能がもれ、たくさんの住民がやむを得ず避難生活をして



小宮さんの話に会場は静まりかえります

いる状況です。また、避難生活をしている子どもたちの心の変化も見え出したそうです。今まで、我慢していた気持ちももう限界にきている子どもたちもたくさんいます。

小宮さんがひとつのケースを話してくれました。震災で故郷と両親を失ってしまった、生きていくのはたった1人自分だけ。帰る家もなく、神戸の親戚の家に避難して生活をしてきました。が、「やっぱりここは自分の居場所ではない」と親戚の家を飛び出して福島へもどり、両親の遺骨と共に海に飛び込んでしまったそうです。

周りの人に弱さを出すことすらできない子どもたちの実態を聞き、その事実すら知られていない現実にも憤りを感じました。

軽々しく「復興」「絆」なんて言葉を使わないでほしい、現地の人はそんなことを求めているんだ！と感じました。

実態を自分の目で見ることも

大切だと思えます。福保労中央本部がとりくんでいる「ぶくしろうカンパ」も大事なとりくみの一つです。少しずつでもできることにとりくみましょう。

〈分科会②ふさわしい賃金・労働条件とは〉

私は、みなと福祉会分会の賃金闘争についてレポート発表をし、他の職場の実態など出し合い交流しました。

まず初めに「福祉労働者は工キスパート（技術熟練者）であり、専門性を高めるためには民主的な職員集団の形成と実践の積み重ねが必要なんです」と福祉の仕事の前提を教えてくださいました。

参加者から話された実態からは、どこの職場も日々の業務に追われていっぱいいっぱいの状態で、余裕なんてないところがほとんどということが明らかに



分散会でレポート提案をする、みなと福祉会分会の原さん(左)と小原さん(右)

正しく知ろう！ 労働者・労働組合の基礎知識 ④

Q. 「労働組合」って、メリットありますか？
A. 労働組合の発祥は「イギリスのパブ」と言われています。労働者は、怪我や病気で仕事を休んだら、「賃金」が入らなくなってしまう…（資本家は違うんですよ）。だからパブで飲んでた労働者がお金を出し合って、何かあったらお互いがこれで支え合おう！というのが始まりでした。もともと「自らの要求」で集まった「助け合い」の組織です。今、私たちは、先輩たちが勝ち取った様々な権利を当たり前と思い、すでにある「組織体（労働組合）」に「入る」か「入らない」かを選ぶ意識になっているから「メリットがあるのかなのか」で考えてしまいがちです。しかし、労働組合とは、自分たちが健康で生き生きと働き続けられるために職場をどうしたら良いのか、行動を起こし、要求実現をする組織なのです。メリットは自分たちで作ります。さて、それはそれとして、素晴らしい「特典」を紹介しますので、ご利用下さい。



1. 無料法律相談（顧問弁護士＝第1法律事務所）
個人の相談で利用できます。電話かメールで相談予約。（電話052-211-2236、メールはHPのメールフォームから。）必ず福祉保育労の組合員であると伝えること。初回相談（30分）の相談料が無料。以降必要なことについては実費本人負担。
毎日相談担当の弁護士が決まっているので、都合のよい日に相談できます。また、離婚、相続、交通事故、労働、建築瑕疵の相談については、専門チームを設置しています。（詳しくは第1法律事務所のHP <http://www.daiichi-law.gr.jp/>参照）

2. 労働金庫
①ローン各種【住宅・教育・カーライフ・フリー（生活資金）】の金利や手数料が、一般利用者より優遇されます。ローン申込用紙に地本印が必要なので、まずは地本に申し出て下さい。
②労金のキャッシュカードによる、コンビニATMからの入金・引き出しなどで手数料が発生した場合、口座に全額バックされます。（労金で通帳・カードを作るのに地本印は必要ありません。）

なりました。

そして、もう一つ共通して言えることは、募集しても人が集まってくれない、若い人が入ってこないという深刻な現状であることです。(みなと福祉会は例外ですが…)

「どうしたら、人が集まってくるのかなあ？」という話になり、意見を申し合いました。話の中で実際、福祉労働者は入職してすぐにエキスパートを求められていて、特に若い人はベテランから求められるばかりで評価されなくて、どんどんしんどくなってしまっているのではないかと意見が出ました。

この仕事は好きだけど、しんどくて職場を辞めていく人はどこの職場も多いそうです。

職場を辞めていかないためには？長く働き続けるためにはどうしたらいいのか？やはり「働いて生活できる賃金」と「労働条件の安定」が前提にあると思います。今の日本社会では安定した生活ですらギリギリのラインではないかと感じます。

長く働き続けるためには、この仕事を続けたい！と思える職場や一緒にそう思える仲間がいることが大切だよねと改めて労働組合の存在の重要性が感じられました。

どんぐり分会 白石 昌久

今回の社研集会の分科会「組合ってなに？」に参加してみたいという歴史や福岡地本の方々の組合との出会い、自分たちの要求のために分会員が一致団結した話を聞いて、とても勉強になりました。

1年前2年前の自分は、組合との向き合い方はどうだったかなと振り返って考えさせられるきっかけにもなりました。

自分自身、1年前まで執行委員でもなかったのだから、組合に行くこともなく、分会の中だけに留まっていた組合活動でした。考えてみると、日々の保育に追われ心身共に疲れていて「休日に組合活動なんて…」という思いがあったように感じます。確かに、休日はゆっくり休みたいという考えもありますが、今思えばもったいないことをした

いつもと違う場所、違う仲間と話すことで、新しい学びがたくさんありました。



たなと思えます。

社研集会では、福岡を軸にたなさんの県から新人ベテラン層まで幅広い年代の方々が参加されていました。私が参加した分科会では、新人や若者が多くそこで「組合とは何か？」という根本から学ぶ中で、自分たちの思いを言葉で出し合いながら交流して行くことができました。

若い組合員の悩みは共に共感し、ベテラン組合員の思いは共感しながらも学ぶことが多くあり視野を広げることができました。また、若い組合員の中で「こういう集会に参加しても知っている人がいないし、参加しにくい」という気持ちを持った方がいました。以前の自分の思いと共感できるなと感じました。

「どんな集会なのかわからないし…」という思いがどんどん膨らんで「やっぱり参加しない」という気持ちになってしまいがちだと思います。でも、少しの勇気を出していき参加してみると、同じ悩みを抱え共感し合える仲間や支えてくれる仲間と出会えるきっかけにつながることも事実です。若い組合員さんは「今回参加して本当によかった」と最後に一言伝えていました。

その一言の中に思いがすくつまっているなと感じました。今回の分科会のテーマ、「組



みんなで「じゃんけん列車」をして盛り上がり、気持ちもリフレッシュ。

合ってなに？」というのは誰しもが感じることでありますが、簡単なうだけ一言では表せられないテーマだと思えます。その分科会に今回参加して、初めは緊張しながらもたくさん交流することができたし、先輩組合員の話も聞いてとても勉強になりました。

つながりを大切にするとという意味でも、今度は全国青年部の企画、青年労働組合講座「まなわか。」で再会できたらなと思えます。

今は、私も執行委員として青年部に関わりたくさんの組合活動に参加しています。自分が支える…ということ、なんだか頼りないですが東海地本や全国の青年部と交流を深めながら青年だからこそ感じる思いを共感しながら、そこでのつなが

りを大切にし次へ次へとつながられるように活動していきたいと思っています。その一つとして、今度の組合学校で、分散会B「組合ってなに？」の企画づくりをしてきました。ぜひ多くの人に参加してもらいたいです。

組合に入っているからこそ、共に支え合う仲間がいる。愚痴を聞いてくれる仲間がいる。それってとても貴重で、仕事をすすめる上で欠かせない存在になってくると思います。今回の社研集会では、視野を広げ「今後頑張ろう」と思えるきっかけになりました。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

戦争と平和の資料館 **ピースあいち** 開館5周年特別企画

丸木位甲 丸木俊 **原爆の国展**

「少年少女」と「とろろう流し」

どらも 1.8x1.2mの大作!

2012年 7月28日(土) ~ 8月31日(金)

前売券 大人800円 小中高生400円
当日券 大人1,000円 小中高生500円

※入館料を含んでいます。

閉会式(有料)8月11日出13:30~「丸木俊 女給かぎの誕生」(仮題)朗読 山田 昌、天野鎮雄

当館ご持参の方は原爆の国展当日券 大人1,000円を900円に、小中高生500円を450円に割引します。

開館時間 午前11時~午後4時 期間中の休館日 日曜日・月曜日 電話・fax 052-602-4222

入館料 大人300円・小中高生100円 〒465-0091 名古屋市長東区よもぎ台2丁目902番地

怒

6・22原発再稼働反対 官邸前集会

中央行動があった22日の夜に、首相官邸前で大規模な原発再稼働反対の抗議集会「あじさい革命」が行われました。この取り組みはツイッターなどで参加呼び掛けが広がり、毎週金曜日の



官邸前から議事堂まで、人であふれかえりました

18時〜20時の間で行われていました。この日の参加者は主催者発表で4万人以上でした。

集会に集まった人々のあちらこちらから「再稼働反対！」の声が上がりますが、それは主催者が意図した「シユプレヒコール」ではなく、一致した思いから出てくる一人ひとりの、心か

らの言葉でした。

この集会は回を追うごとに盛り上がりを見せ、参加者が増え続けています。大飯原発3号機の再稼働が目前に迫った6月29日のデモには、10数万人〜20万人が集い、そのあまりの多さに車道も封鎖され、首相官邸前から国会周辺まで、人で埋め尽くされました。

こうした国民の声を無視して、7月1日に大飯原発3号機の原子炉に再び火が灯り、翌日臨界に到達し、9日にはフル稼働状態となりました。それに伴い、関西電力では8基の火力発電所を止めるという報道が一部でさ

れました。もしそれが事実ならば、原発を再稼働せずとも、現状のまま電力需要を賄うことはできたのではないかと再稼働の「正当性」が根本から崩れることになり、大きな疑問・疑念が残ります。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 6・23怒りの国民大集会



人とのぼりで埋め尽くされた明治公園
国民の怒りが結集しました！

ている実態。福島からは原発事故からの復旧どころか原因究明すらできない中で「収束宣言」が出され、原発の再稼働もされようとしている事態に「怒りを感ずる」と話されました。

そして、福保労東京地本の組合員も壇上上がり「子ども・子育て新システム」の修正案が密室の3党合意で決められ、保育が金儲けの道具にされようとしている実態を訴えつつ、最後まで闘う決意を話しました。

最後は明治公園から三方に分かれデモ行進。道行く人に「消費税増税NO!」を訴えました。

**原水爆禁止世界大会
代表団結団式&学習会**
「原発って本当に必要？」
講師：安保 成子さん
(おひさまママ主宰)
福島の実態を聞き、原発の問題など学び、交流しましょう
日時：7月27日(金)
19:00~21:00
場所：労働会館本館

【編集後記】

数年前から猫屋敷と化している我が家に最近、新しく家族が7匹加わりました。2匹の母猫が力を合わせている様子に助け合っていて大切なあ。と感じ、そして兄弟姉妹と楽しくいっばい遊ぶ子猫たちを見ると、仲間がいるって良いねえ…なんて感じ、癒される今日この頃です。

「シリーズ・わたしのおすすめ」 たけのこ分会 鈴木 安夫さん

若い時は、勤め帰りや出張で車移動している時、やたらと目に映って気になったのが道沿いの「赤提灯の明かり」だった。ちよっと前までは、行きつけの店が3〜4軒、その中で深夜2時までの店もきっちり確保し、保育の仕事仲間や和太鼓グループの仲間と飲んで語り合ってきた。これが命を育てる仕事を長く続ける原動力になった。

近頃は、還暦も遠くへ過ぎ去り、体力も落ち、尚且つ、めんどくさい事への忍耐力も落ち、貧乏にもなったので、仕事を終えて家でゆっくり飲む事が生活リズムとして定着してきた。4Lの焼酎とウイスキー、ビールに日本酒、そして、白酒。この白酒はパクチュウは中国ハルピンの酒で日本酒と見た目は同じ。アルコール度数が43度、昔は50度、60度以上もあったらしい。

これが美味しいのである。私のお勧めである。美味しい上に何が良いのか、日本酒やビール、この頃は焼酎やウイスキーでも夜中に目が覚める。この白酒はコップ1杯飲むと（正確さを求めるなら1杯半）確実に次の日の朝まで眠れるのである。この話を職場でしていたら「ひよっとして気を失っているんじゃないの?」。言われてみるとそうかもしれない。

目覚めはスッキリ。湿度の低い現地ハルピンでは何杯飲んでも美味しいつまみ中国の地方の餃子や田舎料理と共にならでも入っ

ていきそうである。下戸はもちろん、上戸も試してみたらどうかなく。つまみになる田舎の中国料理教えるよ（笑）たけの子分会の鈴木でした。



翌23日には、「いのちと暮らしを守れ!怒りの6・23国民大集会」が東京は明治公園で開催されました。全国から2万4千人が集まり「消費税増税NO!」「民・自・公の談合政治はやめよ!」と大きく声を上げました。東日本大震災の被災地である、宮城からは、未だに進まない「復旧」に反して、市民生活や中小企業への支援ではなく、大企業優遇の「復興」が進められ